

庭がなくとも諦めるな！

「シリーズ④」

ベランダ栽培人

小川 柁幸さん(72歳・京都府)

今月は京都南部の団地で250鉢ほどの春蘭を栽培されている小川さんを紹介しよう。ベランダで150鉢、さらになんと室内でも100鉢を育てている。ベランダでも珍しいが室内ともなればもはや型破り。なぜ室内で？どうやって？と疑問が湧くばかり。ちなみに、この団地の一室は住居ではなく、春蘭のために借りたセカンドハウスなのだとか。伝統園芸の世界には強者が多い。

本当に室内でも栽培されているのですか？冬季だけではなく？

室内。真夏もそうです。

そうですね。誰からも本当に室内で育てられるのかと驚かれます。一年中、作場を動かすことはありません。室内のランはずっと

けは？
そもそも春蘭をはじめたきっかけは？

30余年前になりましたけど、義理のお兄さんの影響です。ランの

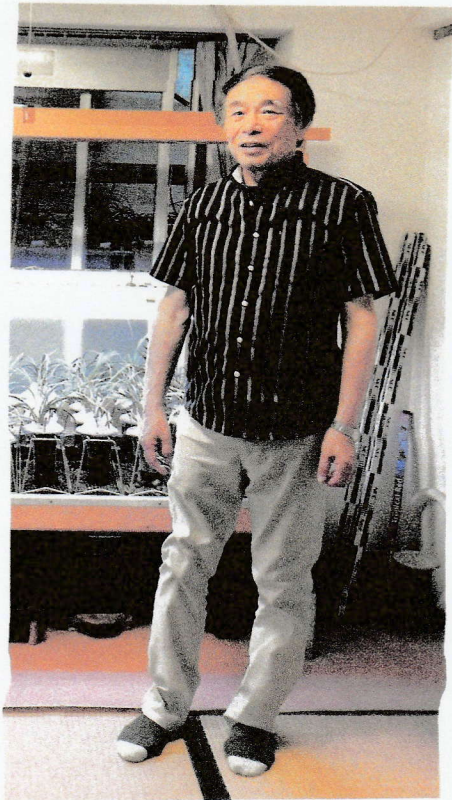
魅力に取り憑かれた方でしてね(笑)色々といただいたのがきっかけです。

当初からこの部屋で栽培を？

いえ、私自身は同じ団地内の別の部屋に住んでいるんですよ。といってもここから歩いて5分ほどかかるんですけど。この部屋と同じような広さですが、当初から家内とベランダの主導権争いでした。そもそもベランダは湿度、風、日照が思うようになりませんし、趣味に熱が入ると作場へのストレスがたまってくるわけです。一時期は郊外への引っ越しも考えましたが、家族に猛反対されましてね。それならという事で、春蘭用にこの一室を借りることにしたんです。12年前からここで栽培しています。

実際のところ春蘭の栽培場所としてどうでしょう？

あえて東向き・2階を選びま



京都府在住の小川柁幸さん(72)。百喜千遊会に所属。写真のように室内で100鉢の春蘭を栽培される。



したから申し分ないと思います。じつはここに決める前にほかにもいろんな部屋を見て回ったんです。世の中、栽培に適した物件なんてそうはありませんよ。人が住むために設計されているんですから。ただし、稀に植物に合った条件の部屋もある。そんな物件を見つけてあげることができれば、室内

ベランダはスチール棚で栽培中。2~3段にしているの150鉢ほど栽培。水やりは室内からバケツを運びジョウロで。棚の下段の鉢に水がかからないように波板を利用する。





北東向きのベランダ全体を寒冷紗とよしずで覆ったことで全体的に作が安定したという小川さんの棚場。室内奥の棚は特注の木製棚。春蘭を知る大工に作ってもらったので「かゆいところに手が届く設計」になっているそうだ。お値段30万円と高価だったが、十分価値のある買い物だったという。生長期は扇風機を24時間稼働。

でも栽培できます。屋外にはない利点もあります。

その利点をいくつか

手を伸ばせば電気・水道・ガスに届くところです。ガスは鉢を煮沸消毒するのに必要ですからね。あとは害虫も圧倒的に少ない。

ベランダでも栽培されているんですよね

そうですね。室内での栽培が成功しているので、陽を採って花芽をつけたい花物はベランダ、小さな株は室内と分けて栽培しています。花つき云々の話まで行くと補助光では物足りません。しかし、どちらがうまく育つかと言えば室内のような気がしています。とくに養生株は室内です。

採光については？

日照こそ一番気を使うべき問題でして、私もずいぶんと試行錯誤をしたものです。ある年、ベランダ全体を寒冷紗とよしずで覆ってから育ちが断然よくなりました。東向きですから11時頃で陽が切れるのですが、それでも直射は春蘭にとって好ましくない

シリーズ「ベランダ栽培人」について

記念すべき第一回は中国愛蘭会の顧問を務める石井邦彦さん89歳、新幹線の停車駅でもある岡山駅のすぐそばのマンション13階で春蘭150鉢ほどを栽培中。その部屋は春蘭栽培を考へ、害虫が発生しにくい高層階、東向きを選んだという。第二回は東京の高層マンション41階にお住まいの佐藤彰敏さん。誰もが羨む絶景だが植物栽培には風が強すぎる環境。鉢にサララッパを巻くなどの工夫で展示会入賞常連の地位を築く。第三回は若手春蘭愛好家・渡辺文さん。転勤族のため組み立てやすいイレクターで棚を組み春蘭200鉢ほか合計350鉢を栽培中。奥行き90センチのベランダに90センチの棚を組む。誌面掲載の「全閣室」不動丸は圧巻。

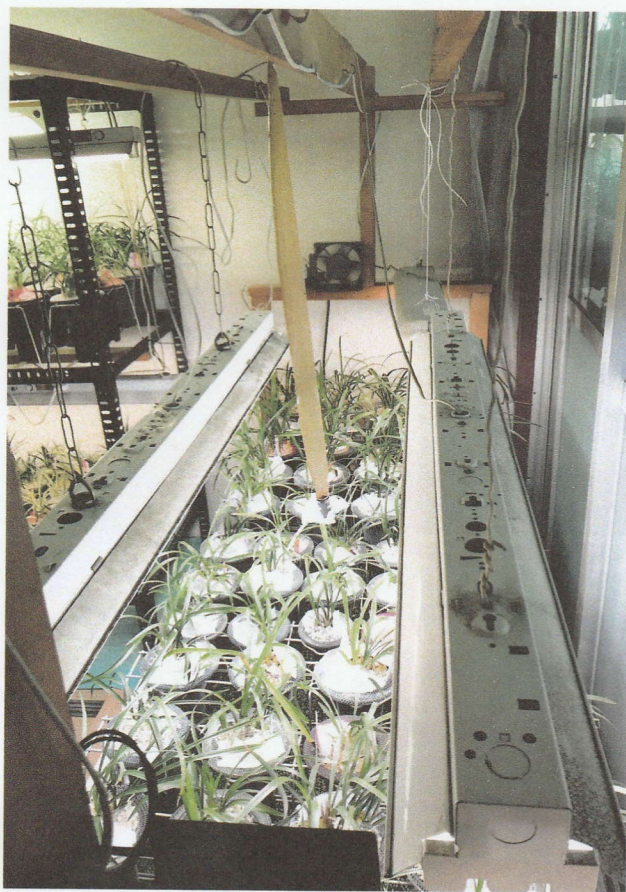


ようです。ただし、ベランダ全体を覆ったので、室内は満足のゆく陽当たりは望めません。育成灯で補助していますが、それでも3000〜4000ルクスです。タイマー制御で日の出から夕方16時頃まで毎日照射しています。育成灯はどのメーカーのものを？理想の明るさは？

NECのBIOLUX A 40Wです。できれば7000〜1万ルクスあればと思っています。

水やりは？

ベランダは蛇口がないのでバケツに水を汲んで運び、ジョウロで1鉢ずつやります。これがけっこう大変なんです。室内の木製棚のほうで断然楽でしてね、じつはこの棚はランの先輩のご子息(大工)が特注で作ってくれたものなんです。鉢底から流れ出る水がベランダへと排出されるように設計されていますから、ストレスなしです。同じ室内の棚でもスチールラックのほうはそのまま水やりをすることはできません。畳が水浸しになってしまいますから(笑)。鉢掛けごとベランダに出し

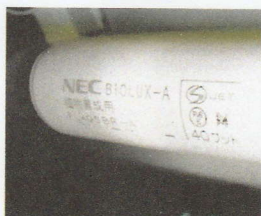


水やりはジョウロで。この棚には傾斜がついているため鉢底から流れ出る水が排水溝に集まり、室外に排出される。床が水浸しになる心配はない。

木製棚を上から撮影。育成灯、ファン、コバエの捕殺シートに注目。室内の育成灯は主にNECのBIOLUX-A・40ワットを使用。植物育成用に開発された商品。1000円弱で購入。



福井の達人が作るオリジナル木酢液
小川さんは交友関係が広い。手にしているのは福井の達人が作るオリジナル木酢液。こちらも使用中。その効能は非常に見定めにくいのだが、春蘭が元気になるきっかけとなるようで、これを欲しがっている愛好家は多い。福井の達人こだわりの品。うま漬が現れ、根は太くゴツゴツとした太い根になり株自体が強くなると言われている。



蛍光灯
小川さんが使用するのはNECの植物育成灯ビオルックスA。鉢鉢商品のビオルックスが青色光(4000〜5000lm)、赤色光(6000〜7000lm)を強調しているのに対し、ビオルックスAは近赤外光(700〜800nm)も強調する。商品説明にはランの育苗、観葉植物の育成、花卉植物の栽培などに適するとある。

て、ジョウロで灌水をして、しずくが落ちてこなくなるまで待つて部屋に戻します。大変ではありますけど、ここが栽培の大事なポイントですが、シャワーでジャブジャブ水をやるよりもジョウロのほうが調子がよくなります。ひと鉢ずつ観察しながら水をやるんですから。

空中湿度に関しては？

湿度はお手上げ！一番頭が痛いところですよ。難しい。人工芝や水を入れたトレーなどの対策を考えています。解決にいたって

おりません。

植え替え時期は？

花が咲いた株は春のうちにやりますけど、基本的に秋に行います。春の生長し始めの段階で根の先端を傷めるのはシヨックになるはずですよ。また、植え替えてから根が落ち着くまでの数週間は生長がストップするでしょうから、春先にやるのはもったいないと思われています。

用土は？

京都蘭センターが販売してい

る「京らん土」(日光砂と焼赤玉土の混合用土)を主体としています

が、乾きが早い棚なので吸水力のある鹿沼土も加えて水もちを調整しています。それと、ここもひとつのポイントなのですが、以前、『園芸 JAPAN』で紹介されていた、大中小・微粒をあえて混ぜて植える方法をやっていきます。私は「石垣方式」と呼んでいるんですけど(笑)。大粒と大粒の間に小さな粒が入ることです。まんべんなく水が浸透します。小さな粒がないと水の道ができて乾きにムラができると考えています。

夏場対策は？

特別なことはしていませんが、室内の風通しを図ることが大切です。6〜9月は常時窓を少し開けておき、扇風機も24時間かけています。棚に設置したファンも6〜16時まで作動させています。

冬場対策は？

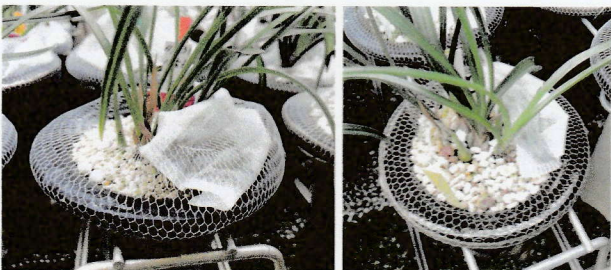
ここ京都南部は氷点下まで下がることがめつたにないんです。いっさい対策をしていません。

肥料は？

水やりのたびに5000)



肥料はごく薄いものを水やりごとに与えている(真夏を除く生長期のみ)。最近ではリキダスも混合。配合作業はすべて台所で行っている。使い勝手抜群なのだそう。



愛媛県の友人が作る油粕を表土に置く。油粕は固めていないのでティーパックに入れて置いているのだが、用土が汚れず、また簡単に取り除くことができる。



裏技発見。小川さんは室内に用土がこぼれ落ちないように、すべての鉢にみかんネットを掛けているのだが、そのままでは新芽が網目に引っかかってしまうことが多々ある。防止策として小さなラベルを新芽付近に挿し込んでいた。これなら網に引っかかることなくすんなりと伸長する。

小川さんの愛培品



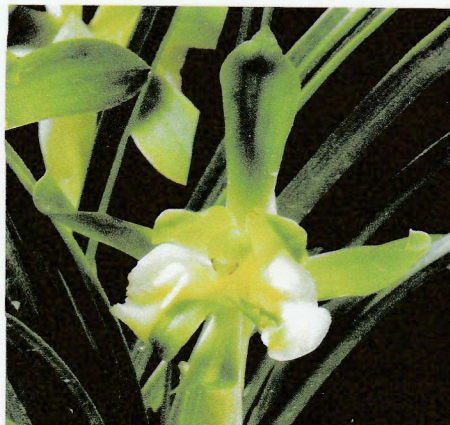
『紅達磨』(べにだるま)小川さんが2017年に咲かせた交配種。発色、花つき抜群。



無名の素心。茨城県産。今年初花。



来歴不詳の花。白地に藍色がかった花色。



『円月』(えんげつ)
韓国春蘭の円弁素心。

『白麗の舞』(はくれいのまい)
非常に珍しい素心の奇花。

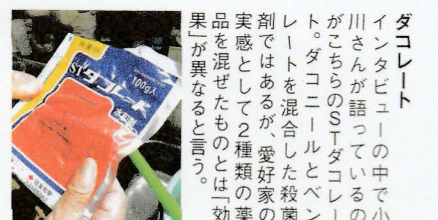
本誌2019年6月号でこの品種を『白兔の舞』としましたが誤りでした。ただしくは『白麗の舞』です。ここで訂正するとともにお詫び申し上げます。

10000倍の液肥を与えています。さすがに真夏と冬場は控えますけど。最近はリキダス20000倍も加えています。置き肥としては植え替え時にマグアンプKの大粒を少々入れていきますし、愛媛県の友人が作ってくれた油粕をティーパックに入れて表土に乗せています。

殺菌・殺虫剤はなにを？
殺菌剤はベンレートやダコニール、タチガレン。殺虫剤はアクトリック、ケルセン、スプラサイドなどです。春秋3回ずつ混合して散布しています。あとは植え替え時にダコレート15000倍液を灌注しています。これをくりかえしていると、根が見違えるほど

きれいになりますよ。根の本数も増えます。北四国愛蘭会(愛媛)の方から伝わったのですが、見えるほどになるので、私のまわりの方は皆真似しています。最後に全国のベランダ栽培人にアドバイスを
ベランダ・室内栽培は難しいと

いうのは間違った固定観念ですよ。じつはそうではないんです。春蘭に関しては工夫次第ではあるものの、むしろ適していると言ってもよいくらいです。事実、私の棚の春蘭はよくできていますから。みなさんも自分の棚に合った工夫を見つけて栽培を楽しんでほしいと思います。



ダコレート
インタビューの中で小川さんが語っているのがこちらのSTダコレート。ダコニールとベンレートはあるが、愛好家の実感として2種類の薬品を混ぜたものとは「効果」が異なると思う。